

今年4月からの内桶克之の活動



4月 法政大学大学院政策創造研究科に入学。
現役大卒、社会人、留学生とともに大学院生として研究活動開始



4月 大相撲笠間場所実行委員会委員として、食の責任者で頑張る。



5月 笠間教育旅行の受入れ（浦安市の中学生）。野菜の収穫体験、生物観察などの体験活動（この後、3回の笠間教育旅行で中学生を受入れ）



6月 日本ゴルフトー選手権森ビルカップ大会役員としてグリーンフェスタかさまを運営



7月 常磐大学自治体連携講座の講師。「これからの産業とまちづくり」と題して講義



7月 地元、高房神社祇園祭の盛上げ隊の活動。幹事として地域のまとめ役。



9月 大学生観光まちづくりコンテスト茨城ステージ
100チームを超える大学から決勝10チームに残り、茨城県観光物産協会賞を受賞



9月 支援した映画「棘の中の奇跡～笠間の栗の木下家～」ハリウッド国際映画祭4部門で受賞！
主役の西尾舞生さんと



10月 激辛ヒーハー祭りスタッフ 笠間の食と市民のつながりをつねに考えて行動

今までの仕事

昭和 58 年 4 月～ 株式会社都市開発技術サービス（現在の株式会社 UR リンケージ）
横浜市港北ニュータウンの都市施設（下水道）設計業務

昭和 59 年 4 月～ 友部町役場事務吏員として採用

下水道、消防防災、流通センター整備、小原畠地帯総合整備事業、霞ヶ浦用水事業、農業集落排水、農村整備、市民参画「友部学」、県内初のパブリック・コメント条例の制定、音楽のまちづくり「国際音楽アカデミー」の開催など

平成 18 年 3 月～ 「新笠間市」 主に市民活動課の仕事に従事し新たな政策を実施
市民憲章の制定、まちづくり出前講座、市民活動助成金制度、集会所の整備・修繕助成制度、公用車の貸出制度、広報紙改革、市民モニター制度、市役所内モニター広告事業、県内初の地域ポイント制度、ホストファミリー登録制度、県境を越えた出会い創出事業、ふるさと納税制度の一括業務代行、廃食油の再生可能エネルギー、消費生活センターのNPO法人への運営委託、地域交流センターの整備計画、民間交番の設置・運営、市内防犯灯の一括リース方式LED化、高齢者運転免許自主返納支援

平成 26 年 12 月～ 産業経済部参事（笠間市農業公社 理事兼事務局長）
耕作放棄地解消・担い手への農地集積、栗植栽事業（栗のモデルほ場の整備、栗拾い体験等）、農産物販売・特産物研究開発事業、農作業支援事業、グリーンツーリズム事業（笠間クラインガルテン、体験農業）
JICA 草の根技術協力事業（ベトナムソンラ省の農業支援）、台湾政府の招聘による「国際農業旅行発展シンポジウム」の講演者・パネラー参加。

平成 30 年 3 月 笠間市役所を退職

市民とともに、地域とともに

ともに歩む

vol.1

平成 30 年 11 月発行
発 行：内桶克之後援会
連絡先：〒309-1706
笠間市鴻巣 593
Tel: 0296-77-2524
Fax: 0296-77-2524

皆さん、こんにちは、内桶克之です。

私は、民間企業、そして地方公務員として 35 年の経験や知見を積んできました。

現在、法政大学大学院政策創造研究科の大学院生として、地域の活性化やイノベーションの研究を行っています。今までの経験を「笠間市のまちづくり」に活かしたいと、地方自治体の議会議員を目指す決意をしました。

皆さんは二元代表制という言葉を聞いたことはありますか。これは憲法上、議会の議員と首長（市長等）が自治体住民から直接公選で選任されることを言います。合議制の地方議会は、住民の多様な意見を反映するとともに、審議過程の争点を明確にする代表機能を有しています。私は地方議会の特性から、現場を重視した市民のための議会活動を展開したいと考えています。

政策とは？ 一般的には「国や地方自治体が抱える課題に対する対策」です。国であれば「金融政策」や「外交政策」などがありますが、地方でいうとその地域の「農業政策」「産業政策」「福祉政策」「子育て政策」などのことを言います。

時代は少子高齢化、人口減少社会で、課題が山積している状況です。この様々な課題について、市民の皆さんから意見を聞き、その現場を確認し、客観的なデータに基づき政策を創り、執行部と議論をして市民のためのより良い政策を実施することが私の使命だと感じています。情報通信技術の急速な発展によって、変革の時代を迎えています。行政、自治体のまちづくりもハード重視の開発志向からソフト事業へ。地域も経済重視から生活重視の価値観に変わりつつあります。

このような時代のなかで市民の皆さんのが、生きがいをもって市民生活が送れるよう「政策力で勝負！」を合言葉に頑張りますので、応援よろしくお願いします。

うち おけ かつ ゆき
内桶克之
プロフィール



昭和 35 年 10 月 1 日生まれ（58 歳）

日本大学農獣医学部 卒業

元 笠間市産業経済部参事（笠間市農業公社
理事兼事務局長）、市民活動課長

現在 法政大学大学院政策創造研究科 在学
ともべ幼稚園理事、NPO 法人グラウン
ドワーク笠間顧問、笠間市ドッジボール
協会理事長、茨城県ドッジボール協会理事、

日本ゴルフトー選手権森ビルカップ大会役員

家族 妻 里子（元 笠間市 保健センター保健師、県立岩瀬高校専攻科衛生看護科講師）、二男一女
両親 父 忠（まこと）は元友部町議会議員（2期）、母 則子は野菜づくり名人
祖父（故人）勇（isa mu）は宍戸町議会副議長として友部町誕生に尽力



後援会役員の皆さんと

日本ゴルフトー選手権森ビルカップ大会役員

1 地域人材力

①地域コミュニティ活動の育成・支援

人口減少社会の中で地域の衰退を防ぐには、地域のコミュニティづくりが不可欠。地域リーダーを中心として地域自らが課題解決する仕組みづくり。それらの活動を育成、初期段階での支援、地域活動を継続的に行う仕組みづくり。



②NPO団体等の育成活動・支援

笠間市には32団体のNPO団体がある。NPO団体は地域の課題解決のために行政ではできない事業を展開している。それらのNPO団体の事業支援、そして団体の育成。

③未来を担う子どもの教育と地域を担う人材の育成

子ども一人ひとりの将来を見据えた実践教育の充実。地域やNPO等のリーダーを担う人材育成。



2 健康福祉力

①地域の子育て支援

子どもを持つ親の負担軽減が重要。子どもの就学前、そして就学時の子育て支援の充実。親が働きながら子育てしやすい環境づくり。



②高齢者の健康と生きがいづくり

平均寿命が延びる中、元気な方々の高齢ビジネスの支援、地域の産業等と連携した生きがいづくり、スポーツや運動を通した健康づくりの支援など。

③誰もが安心して暮らせる地域づくり（ユニバーサルデザインの向上）

安心で安全なまちづくり。障がい者の自立した生活を送るための支援。地域防犯対策と交通安全対策の充実。生活に密着した道路や公共施設等が利用しやすい環境づくり。

内桶克之が掲げる 地域の活性化を図る 3つの重点的な「力」政策 そしてさらに3つの個別政策 3×3政策

3 産業力

①新たな農業の振興とブランド力の強化

笠間の特徴を活かした農業振興の強化。消費者が求める農産物の栽培や加工品の製造を通じた笠間ブランド確立のための支援と情報発信。

②地域の特性を生かした産業（観光や商工）の育成・支援

笠間には芸術や文化などの資源が多い。これらの資源と産業の連携による地域の活性化。観光資源の連携による集客向上とインバウンドの促進。

③企業誘致の推進と起業支援の強化

工業団地等への企業誘致促進のための支援の強化。誘致した企業と地元企業の連携による企業の活性化。地域を担う内発型産業の育成と起業を志す方々の育成・支援。



HP <http://uchioke.com>

f [katsuyuki.uchioke](#)

o [okeok19601001](#)

Facebook Instagram
にて活動更新中！

